

コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金実績報告（公開用）

令和3年2月28日

項目	内容
事業者名	会社名：株式会社ガイアシステム 代表者職名・氏名：瀧上 智信
補助事業テーマ	「農業体験×セカンドハウス」ワーケーションモデル&サテライトオフィス誘致と地域特性を活かした企業版スタディツアーの実証実験
事業実施期間	令和2年10月1日～令和3年2月28日
事業の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 舞鶴市独自のワーケーションスタイルの確立と拠点化</li> <li>② ワーケーションを通じたサテライトオフィス誘致</li> <li>③ 地域特性を活かした企業版スタディツアーのプラン策定</li> </ol>
事業の実績(成果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 【取組】地元事業者や住民、市役所職員を招いたワークショップや説明会等を実施、事業の独自性調査及び関連コンテンツの開発            【成果】独自のワーケーションモデル策定とブランド化構想に向けての情報整理、事業化展開及び多面的波及効果の可能性の把握            【課題と対策】ハード・ソフト面での環境整備や法整備上の課題もあったが、随時自治体や地元事業者、住民との協働により進める</li> <li>② 【取組】企業向サテライトオフィスのニーズ調査及びその動向分析            【成果】コロナ禍における企業の働き方改革への取組実態状況、サテライトオフィスに関する企業ニーズの把握</li> <li>③ 【取組】スタディツアーのコンテンツ開発として“遊休農地・耕作放棄地の農地活用に関する調査”、また“市街化調整区域における移動式タイニーハウスの設置に関する調査”の実施            【成果】農地活用及び移動式タイニーハウスの設置に関する実態、その可能性調査及び各種課題と今後に向けての対策の把握            【課題と対策】新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言の影響を受け、当初計画の現地調査及び体験プログラム実施が中断となったため、3月度以降での順延開催を検討しつつ、プラン策定を進める</li> </ol>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本実証実験により、滞留人口の増加、消費活動、空き施設の拡張、滞在型施設の稼働率向上等、新型コロナウイルス感染症拡大により落ち込んだ観光産業の回復に向けて、本事業の多面的波及効果の有効性を確認するとともに、今後も具体的な事業化へ向けて継続的取組を進める</li> <li>・地方への若者の呼び込み、移住促進、定住人口減少化の抑止、地域産業の担い手の維持が期待される</li> <li>・本モデルケース（舞鶴市）は、京都府他エリアでの水平展開を想定しており、京都府独自の特性を活かした新しい”地域一体型の観光ブランディング”の実現を可能とする</li> </ul>